

---

# 泥雪のスノウマン

雛月詩音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

泥雪のスノウマン

### 【Nコード】

N1098D

### 【作者名】

雛月詩音

### 【あらすじ】

スレた女の子が、元気な女の子に出会ってすこしだけ救われるお話。

むかつく。あーむかつく。別に理由とかないけどむかつく。  
あるでしょ？ そういうことって。ワケもなくイライラするとき  
とか。ない？ あるの。だって今あたしがそうだし。

寒いし。雪とか積もりまくり。白い。真っ白だよ。

それでそこかしこで子どもとか大人とかが雪ダルマなんか作って  
るの。一生懸命でつかいの作ってるひととかちいさいの量産してる  
ひととかいろいろだけど。あーもう必死になっちゃってむかつく本  
当。

なんか雪ダルマ見てると余計イラッとするんだよね。

だから泥水ぶっかけてやった。

真っ白できれいな雪ダルマが一瞬にして泥まみれ。真っ黒という  
か真っ茶色。汚れちゃった、あーきたない。かわいそー。

ちよつと目を離れたせいで苦労の結晶を台無しにされちゃった女  
のこが、泣きそうな声あげながら家の中に駆け込んだ。おかー  
さーん。だるまさんがー。

まったく。どうしようもないな。

何こめかの雪ダルマに泥水ぶっかけた後、ふつと振り返ると、ち  
つさな女のこがあたしを見上げてた。上目づかいで。ぼけーと。

まったく気配を感じなかったあたしはびっくりして、思わず声を  
かけた。

「何あんだ？」

「雪ダルマつくろ？」

話しを通じないからガキは嫌いだ。

「作らない」

そう言つて逃げようと思つたら、マフラーの端っこを掴まれた。  
首しまった。

「放してよ」

「じゃあおねーちゃんは、からだのほうね。おっきいの作つてね」  
話しが通じないから、ガキは嫌いだ。

まじで作り始めてるし。三步転がすことにこっち見んなよもう。

あーもう寒い冷たい手袋べちゃべちゃだし重いしなんだこれ雪つてなんでこんな重いんだよぶざけんな。

ていうかなんであたしは雪玉転がしてんだよ。

「ふおーもう少しでできるよおー」

ふおーじゃねえよ。寒いよ。

あーもうリアルに冷たいよ手が。もうとっとと帰ってコタツ入りたい。コタツでみかん食べたい。むくのがちよつと面倒だけどこの際ぜいたく言わないから。そしたらシロ適当にいじった後でコタツで夕寝。そうだそうしよう。

ちなみにシロはうちの飼いねこだ。

「できたーッ！」

肩で息をするあたしは返事できない。でっかい雪ダルマが、真っ白まつさらなスノウマンが生まれちゃったよこんちくしょう。ガキには頭持ち上げるの無理だから、完成させたのはあたしなだけども明らかにガキのほうが喜んでる。重かつたつつの。

「ようし」

はいはいよかったね。あたしは疲れたから、濡れるのも構わずスノウマンの横に座り込んだ。ガキはてつてつとスノウマンから離れていった。おいちよつとまてもう帰るのかよ。すこしは遊んでけよ。あたし何のために働いたんだよ。

と思つてたらこっちに戻ってきた。ガキはワケわからんから嫌いだ。

はあ、とため息ついて俯いたあたしの耳に、やたら元気なガキの歓声が飛び込んできた。

「たあーっ！」

ふっとんでった。

あたしの目の前で。スノウマンの頭が。

ドロップキックだった。それはもう見事なドロップキックだった。揃えた両足がスノウマンのどたまにクリティカルヒットしてすーんともうだるま落としみたいに吹っこんでくのがはつきり見えた。スノウマンの頭は勢いよく吹っこんだあと、地面にぶつかると粉々に割れた。粉々。完膚無きまでに粉々だった。真っ白だったけど地面の泥雪と混じって区別がなくなつた。それはもう、あつという間に。

スノウマン、お亡くなり。

享年一分。

早。

「あはははははは！」

やったらうれしそーな、ガキの笑い声。雪の中に倒れこんだまま、げらげら腹抱えてわらってる。もう本当心の底からたのしそーなの。すごい。わらいすぎ。明らかにわらいすぎ。

で、あっちみれば粉々の元スノウマン。あたしが苦勞して持ち上げてやったスノウマン。

「ぶっ」

なんかウケた。

「ははっ。オマエ、やってくれたなこら」

ぱあーんと軽くガキのあたまをひっぱたいてやった。でもまだ笑ってるし。

ガキは笑い続けてる。あたしも座ったままちよつと笑った。通行人にへんな目で見られたけど、まあいいや、ゆるしたげる。

ああ、なんか早くあつたまりたいな。帰ってコタツとか入って  
みかん食べたい。

そんでシロいじくいて、コタツつけっぱで夕寝するの。  
気持ちいいぞきつと。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1098d/>

---

泥雪のスノウマン

2010年12月14日14時48分発行